

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-310002

(P2001-310002A)

(43) 公開日 平成13年11月6日 (2001.11.6)

(51) Int.Cl.

A 6 3 B 69/36

識別記号

5 0 1

F I

A 6 3 B 69/36

テマコード (参考)

5 0 1 B

5 0 1 C

審査請求 未請求 請求項の数3 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-169770 (P2000-169770)

(22) 出願日 平成12年4月28日 (2000.4.28)

(71) 出願人 500264777

澤田 優子

横浜市戸塚区汲沢町1093-1

(72) 発明者 澤田 優子

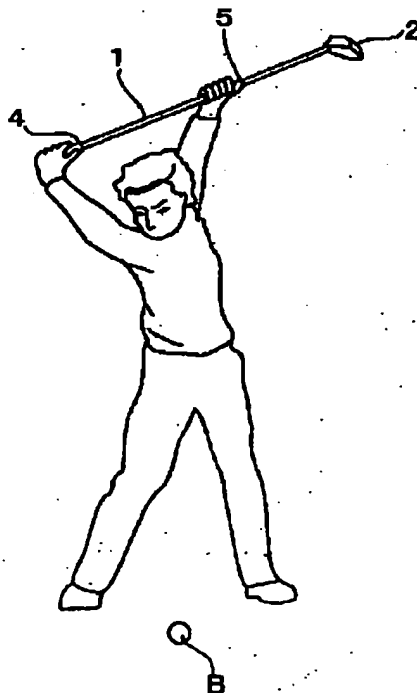
横浜市戸塚区汲沢町1093-1

(54) 【発明の名称】 ゴルフスイングの練習方法、及び、その練習用クラブ

(57) 【要約】

【課題】 ゴルフスイングの練習に際し、きき手のスライド動作に伴って正しいスイングフォームを容易に体感させる。

【解決方法】 シャフト1の元部側部に固着された固定握り部4と、ヘッド2側部に配置され固定握り部4と着脱自在に組み合わされると共に、シャフト1に沿ってスライド可能とされる可動握り部5とによりグリップ3を形成し、バックスイング時には、可動握り部5に添えられている手をヘッド2側にスライドさせて大きく引き上げ、ダウンスイング時には、可動握り部5とともにヘッド2側に引き上げられている手を漸次グリップ3の固定握り部4に戻すようにスライドさせる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ゴルフスイングの練習において、アドレス位値においては左右の手を揃えてグリップを握り、アドレス位置からトップ・オブ・スイングに至るようにクラブを振るバックスイング時には、ヘッド側に添えられている手をグリップの可動握り部を介して漸次ヘッド側にスライドさせて大きく引き上げ、トップ・オブ・スイングからアドレス位置を通過するようにクラブを振り降ろすダウンスイング時には、ヘッド側に引き上げられている手を漸次グリップの固定握り部に戻すようにスライドさせることを特徴とするゴルフスイングの練習方法。

【請求項2】 シャフトの下端側にヘッドをシャフトの上端側にグリップを設けてなるゴルフの練習用クラブにおいて、

上記グリップは、上記シャフトの元部側部に固着され一方の手が添えられる固定握り部と、ヘッド側に配置され他方の手が添えられつつ上記シャフトに沿ってスライド可能とされる可動握り部とより形成し、上記可動握り部は、係合機構を介して上記固定握り部と着脱自在に組み合わされなることを特徴とするゴルフスイングの練習用クラブ。

【請求項3】 シャフトと可動握り部との間には、可動握り部のスライド時に可動握り部の回転を防止してスライドさせるスライドガイド機構が介在されることを特徴とする請求項2記載のゴルフスイングの練習用クラブ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、きき手のスライド動作に伴って正しいスイングフォームを容易に体感させることができるゴルフスイングの練習方法、及び、その練習用クラブに関するものである。

【0002】

【従来の技術】周知のように、フックやスライスを生じさせず良好な飛距離を得るには、クラブヘッドが正しくボールをインパクトするようにスイングを行う必要がある。そのために、ゴルファーは上半身と下半身を正しい状態に保つと共に、肘や肩を正しい状態に保ちつつ正しいフォームでスイングを行い、クラブヘッドが正しい円弧軌道を描きつつボールをとらえるようなスイングフォームを体得する必要がある。

【0003】巷間、スイング時のチェックポイントは100以上あるといわれているが、正しいスイングフォームの概要は次のように説明することができる。アドレス時には両腕と両肩で三角形をつくり、ヘッドのフェースを飛球線に合わせてスタンスをつくる。この状態から左腕の肘が曲がらないようにして両腕を上げていくと、肩と腰とが自然に回りバックスイングの状態に入る。

【0004】バックスイングでは、両肩は水平になるように横回転動作させつつ左肩が大きく回った状態（深く

入った状態）とし、正しいトップ・オブ・スイングのフォームをつくる。一方、ダウンスイングは上記したトップ・オブ・スイングの状態から、左膝、腰の順で下半身を動作させ左腕が曲がらないように注意をしつつ両腕の降り戻しを行う。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところで、このような正しいスイングフォームを体得するには、何回も素振りを行って体得する以外にないのであるが、間違っただまのフォームで何回素振りをして悪いスイングフォームを体得してしまうことになる。また、フォームが正しいか否かを自らが客観的に判断することは大変難しいことでもある。

【0006】このため、正しいスイングを行うための練習器具や練習装置が従来より多数提案されてはいるが、いずれも複雑な構造の練習器具であったり大型の練習装置であったりするために、練習者個人が手軽に行えるスイング練習用のものではなかった。

【0007】本発明者は、一般に初心者や悪いフォームを身に付けフックやスライスなどの多いゴルファーは、次のような欠点があることに着目をした。すなわち、アドレスからバックスイングにおいては、肩を大きく動かすことによって胸は自然に手と腕の移動する方向に向くようにされ正しいスイングフォームが得られるのであるが、肩の回わりが少なく手と腕だけを動かすことが多い。

【0008】また、バックスイングでは右手（きき手）はクラブを引っ張り上げるように動作し、その一方で左手はグリップエンドを外に押し出すように動作させると左腕が伸びて張りが生じ、左腕に張りを持たせたままダウンスイングに入ると、インパクトの際には左脇が絞まった状態でヘッドが飛球線に入っていくのであるが、スイング時に右手がうまく操作されていないことが多い。

【0009】この発明は、上記のような事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、特に右手をシャフト上で自由にスライドさせつつスイング動作を繰り返し練習させることにより、ゴルフのスイング上大切な役割を果たす右手と共に、身体全体に正しいスイングフォームを体感させることができる、シンプルで低コストなゴルフスイングの練習方法、及び、その練習用クラブを提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】この発明は、上記のような目的を達成するために、ゴルフスイングの練習方法として、請求項1記載のように、アドレス位値においては左右の手を揃えてグリップを握り、アドレス位置からトップ・オブ・スイングに至るようにクラブを振るバックスイング時には、ヘッド側に添えられている手をグリップの可動握り部を介して漸次ヘッド側にスライドさせて大きく引き上げ、トップ・オブ・スイングからアドレス位

置を通過するようにクラブを振り降ろすダウンスイング時には、ヘッド側に引き上げられている手を漸次グリップの固定握り部に戻すようにスライドさせることを特徴とする。

【0011】また、ゴルフスイングの練習用クラブとして、請求項2記載のように、シャフトの下端側にヘッドをシャフトの上端側にグリップを設けてなるゴルフの練習用クラブにおいて、上記グリップは、上記シャフトの元部側部に固着され一方の手が添えられる固定握り部と、ヘッド側部に配置され他方の手が添えられつつ上記シャフトに沿ってスライド可能とされる可動握り部とより形成し、上記可動握り部は、係合機構を介して上記固定握り部と着脱自在に組み合わせられてなることを特徴とする。

【0012】また、請求項3記載のように、シャフトと可動握り部との間には、可動握り部のスライド時に可動握り部の回転を防止してスライドさせるスライドガイド機構が介在されることを特徴とする。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施例を図面に基づき詳細に説明する。図1は、この発明に係るゴルフスイングの練習用クラブを示す外観図であり、図2、図3は、この発明に係るグリップの構成を示す説明用断面図である。

【0014】図1に示すように、このクラブはシャフト1の下端側にヘッド2を、シャフト1の上端側に固定握り部4と可動握り部5との組み合わせよりなるグリップ3を設けて構成されている。以下、手の説明は右手をきき手とした場合について説明する。

【0015】グリップ3における固定握り部4は、シャフト1の上端部に固着されて左手が添えられる。また、可動握り部5は固定握り部4のヘッド2側部に配置され、後述するが長手方向に貫通された挿通孔5a内にシャフト1が挿通された状態とされ、右手が添えられた状態でシャフト1に沿ってスライド可能とされている。

【0016】また、この可動握り部5は固定握り部4の対向面に対して係合機構12を介して着脱自在に組み合わせられる。この着脱自在な組み合わせを可能とする係合機構12の1例を図2、図3によって例示する。

【0017】固定握り部4は、その挿通孔4a内にシャフト1の上端部が挿嵌されシャフト1の上端部と固着されると共に、可動握り部5側の端面に挿通孔4aよりも大径の開口面を有する凹部4bが穿設されている。そして、この凹部4bの底部には、磁石や磁性ゴムなどによる磁着体6が凹部4bと一体となるように固着されている。勿論、この磁着体6もシャフト1の挿通を妨げるものではなく、そのためにはリング状に形成されると好適である。

【0018】可動握り部5は、シャフト1にスライド可能に取り付けられたパイプ7の外周をカバーするように

固着されている。そして、この可動握り部5の固定握り部4と対向する端面には、固定握り部4の凹部4bに取り付けられている磁着体6と接合する磁石や磁性ゴムなどによる磁着体8が取り付けられている。

【0019】したがって、スイングの練習を行わない時やスイングの練習を開始するアドレスの際などには、図2に示すように、可動握り部5はその磁着体8が固定握り部4の凹部4bに挿入されて固定握り部4の磁着体6と接合され、固定握り部4と可動握り部5とが一体に組み合わされたグリップ3とされる。この場合、固定握り部4側の端面に開設されている凹部4bの開口面は、磁着体8よりも大径として形成されているので、可動握り部5の磁着体8は容易に固定握り部4の凹部4bに挿嵌され、固定握り部4に対する可動握り部5の着脱はスムーズに行われる。

【0020】また、右手で可動握り部5をヘッド2の方向に押すと、固定握り部4に対する可動握り部5の磁着は解除されるので、図3に示すように、可動握り部5は添えられた右手の動きに伴ってシャフト1に沿ってスライドされる。

【0021】可動握り部5がシャフト1に沿ってスライドされる際には、スライドガイド機構11により回転が規制され直線的にスライドされる。このスライドガイド機構11の1例を図4により例示する。

【0022】シャフト1の外周面に直線状に凸部9が条設され、この凸部9に対応する可動握り部5のパイプ7の内周面には、凸部9が挿嵌される凹溝10が形成されている。これにより、可動握り部5のスライド時には、可動握り部5はシャフト1に対して回転せずシャフト1の軸線方向に対して直線的にスライドされる。

【0023】尚、このスライドガイド機構11は、シャフト1の外周面側に凹溝を形成し、可動握り部5のパイプ7側に凸部を形成した構成としてもよいが、シャフト1の強度の点からは、図4に示したように、シャフト1側に凸部を形成しパイプ7側に凹溝を形成するのが好適である。いずれにせよ、このスライドガイド機構11は可動握り部5が回転せずにスライドするものであればどのような構成のものでよい。

【0024】また、固定握り部4と可動握り部5との接合側の端部には、それぞれ現状の突出部4c、5bが安全機構として形成されており、固定握り部4では突出部4cに手がかからないように固定握り部4を握り、可動握り部5では突出部5bに手がかからないように可動握り部5を握るようにすることにより、特に固定握り部4と可動握り部5との接合時に手をはさむ危険を防止することができる。この安全機構も上記したような作用をなすものであれば図示した機構に限定されることはなく、どのような構成の安全機構でもよい。

【0025】次に、このゴルフスイングの練習用クラブを用いた場合のスイング練習について説明する。

【0026】まず、固定握り部4と可動握り部5とが一体に組み合わされた状態でグリップ3を握る。この場合、シャフト1の元部側部に固着されている固定握り部4には左手が添えられ、ヘッド2側部に配置されている可動握り部5には右手が添えられるとする。そして、両腕と両肩で三角形をつくりヘッド2のフェース2aを飛球線に合わせてアドレスのスタンスをつくる。

【0027】この状態から右手を動作させ、可動握り部5を固定握り部4との結合状態から開放する。そして、クラブを右上方の後方へと振り上げバックスイングに入るのであるが、この際には、右手は可動握り部5を介してヘッド2側へとスライドさせて大きく広げトップ・オブ・スイングのフォームをつくる。

【0028】ここで、自分では左肩が深く入った良好なトップ・オブ・スイングのフォームであると意識するのであるが、さらに右手をヘッド2側と後方側などに動かすと、左肩が更に深く入った状態として矯正され、左腕もしっかりと張りのある状態とされる。

【0029】このように、バックスイングにおいて右手の動きを大きめにスライドさせ、また何度も右手をスライドさせれば、右手だけではなくスイング時の左手の感覚や右手と左手の関係なども繰り返し体感することができる。

【0030】さらに、身体全体の筋肉にも正しいバックスイング時のフォームを体感させることができる。また、右手の動きを様々に変えることにより、フォームの点検や矯正などを外部の装置や付設した器具などを用いることなく感知し体感することができる。

【0031】一方、ダウンスイング時には、トップ・オブ・スイングの状態から左膝、腰の順で下半身を動作させ、左腕が曲がらないように注意をしつつ右手は可動握り部5を介してスライド降下させ固定握り部4へと降り戻しを行う。

【0032】この降り戻しの際には、ダウンスイング時の感覚を右手自身にまた左手と身体全体の筋肉に体感させると共に、左手と一体となるインパクト時のタイミングをも体感させることができる。

【0033】このように、この実施例によれば、ゴルフスイングの練習において、アドレス位置においては左右の手を持てグリップを握り、アドレス位置からトップ・オブ・スイングに至るようにクラブを振るバックスイング時には、ヘッド側に添えられている手を可動握り部を介して漸次ヘッド側へスライドさせ、トップ・オブ・スイングからアドレス位置を通過するようにクラブを振るダウンスイング時には、ヘッド側に添えられている手

を漸次グリップに戻すようにスライドさせることができる。

【0034】このため、バックスイングにおいては、右手の動きを大きめにスライドさせ、右手の自由な動きによって身体全体の筋肉に正しいバックスイング時のフォームを体感させる。また、右手の動きを様々に変えることにより、フォームの点検や矯正などを外部の装置や付設した器具などを用いることなく感知し体感することができる。

【0035】さらに、ダウンスイング時には、右手の降下に伴ってダウンスイング時の感覚を右手自身にまた左手と身体全体の筋肉に体感させると共に、左手と一体となるインパクト時のタイミングをも体感させることができる。

【0036】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば、特に右手をスライド可能としてスイング動作を繰り返し練習させることにより、右手は勿論のこと左手と身体全体に正しいスイングフォームを体感させることができる。シンプルで低コストなゴルフスイングの練習を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明に係るゴルフスイングの練習用クラブを示す外観図である。

【図2】グリップの固定握り部と可動握り部との組み合わせ時を示す説明用断面図である。

【図3】グリップの可動握り部のスライド時を示す説明用断面図である。

【図4】グリップの可動握り部のスライドガイド機構を示す説明用断面図である。

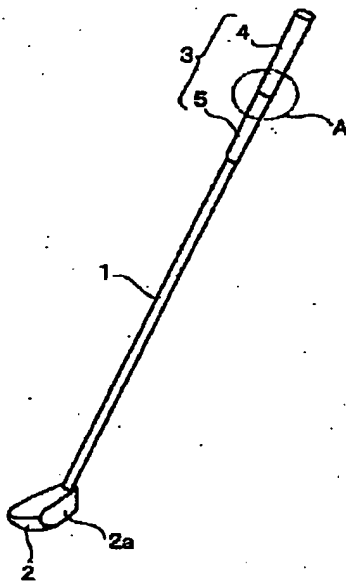
【図5】バックスイング時のきき手の動作を示す説明図である。

【図6】スイング時のきき手の動作を示す説明図である。

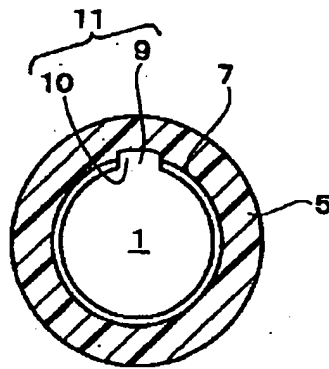
【符号の簡単な説明】

- 1 シャフト
- 2 ヘッド
- 3 グリップ
- 4 固定握り部
- 5 可動握り部
- 6 固定握り部の磁着体
- 7 パイプ
- 8 可動握り部の磁着体
- 11 スライドガイド機構
- 12 係合機構

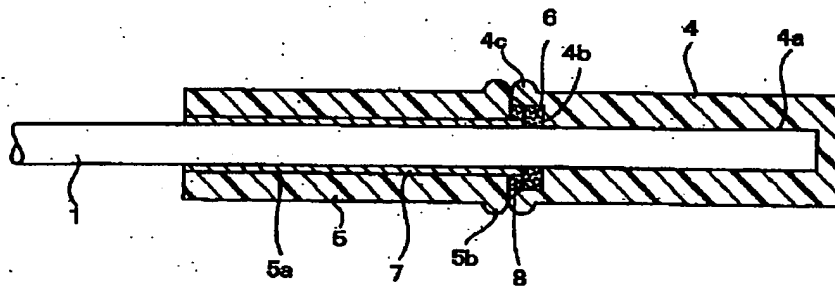
【図1】



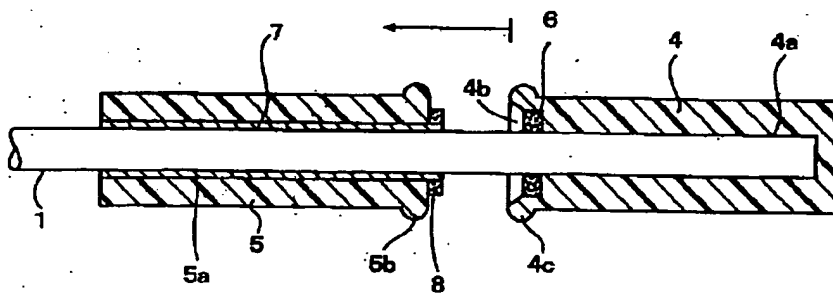
【図4】



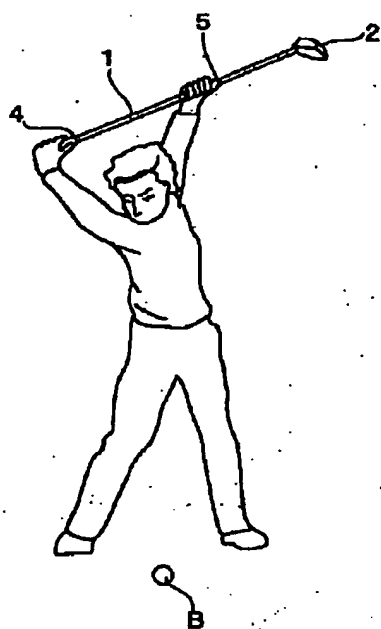
【図2】



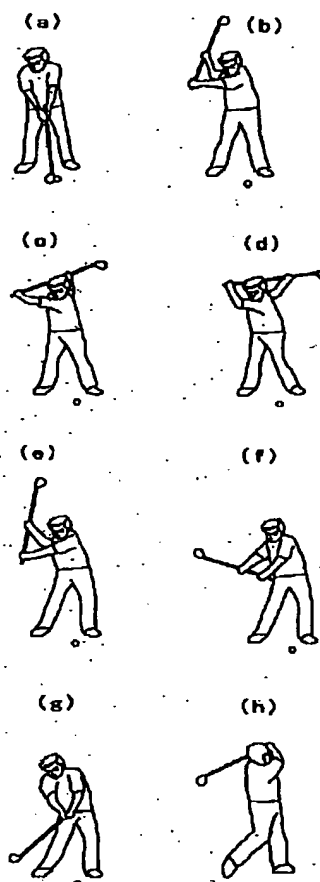
【図3】



【図5】



【図6】



DERWENT-ACC-NO: 2002-078732

DERWENT-WEEK: 200211

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Golf swing method involves attaching hand grip
to golf
through head side, sliding hand gradually to head side
movable grip, swinging and pulling up golf
club, and gradually returning hand grip to fixed grip

PATENT-ASSIGNEE: SAWADA M[SAWAI]

PRIORITY-DATA: 2000JP-0169770 (April 28, 2000)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 2001310002 A	November 6, 2001	N/A
006 A63B 069/36		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2001310002A	N/A	2000JP-0169770
April 28, 2000		

INT-CL (IPC): A63B069/36

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2001310002A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A grip is attached to head (2) side. Grip to club is
slided to a
head side gradually through a movable grip (5) of a golf club during
a back
swing. Back swing shakes club so that it may arrive at top of
swinging
position. A large pull-up is enabled through the back swing. Grip
to club
slides during downward motion of swing and returns to address
position. Hand
from head side gradually returns to fixed grip (4).

USE - For golf.

ADVANTAGE - Enhances golf skills. Provides effective technique in golf swing.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the perspective view of a player swinging a golf club.

Head 2

Fixed grip 4

Movable grip 5

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/6

TITLE-TERMS: GOLF SWING METHOD ATTACH HAND GRIP GOLF HEAD SIDE SLIDE
HAND

GRADUAL HEAD SIDE THROUGH MOVE GRIP SWING PULL UP GOLF
CLUB GRADUAL

RETURN HAND GRIP FIX GRIP

DERWENT-CLASS: P36

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2002-058148